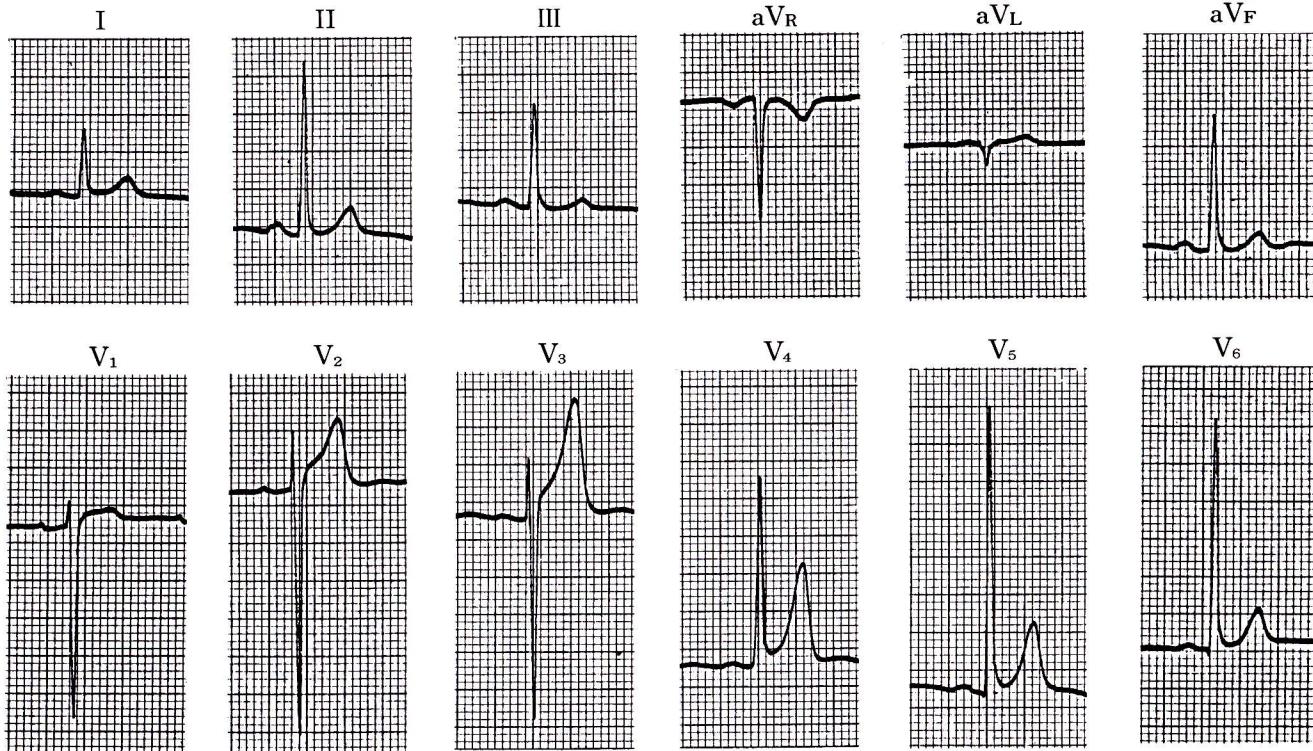


症例 15

●35歳 男

- 健康診断で高脂血症を指摘されて来院。とくに自覚症状はない。



- 1) 全胸部誘導でST上昇がみられるが何か。
- 2) V₅, V₆でR波が高いが何か。

左室肥大

V_5 のR波が37.5mm, V_6 のR波が30.5mm, V_1 のS波と V_5 のR波, V_6 のR波の和がそれぞれ62.5mm, 55.5mmでいずれも左室肥大の基準を満足

している。ST部分の上昇が全胸部誘導でみられるが下に凸であり, **normal variation**と考えてよい。

MEMO

〈左室肥大基準〉

ミネソタコードの左室肥大基準は,

1) R_{V_5} , または $R_{V_6} \geq 26\text{mm}$, R_I , または II , $aVF \geq 20\text{mm}$, $R_{aVL} \geq 12\text{mm}$ のいずれか。

2) R_{V_5} , または $R_{V_6} + S_{V_1} > 35\text{mm}$, $15 \leq R_I < 20\text{mm}$ のいずれか (1)の基準を満たさないとき)

であるが, この基準は体型が小さく, 胸郭が薄い日本人では偽陽性率が高い。

森らは日本人の左室肥大基準として, 以下の基準を提唱している。

1) $R_{V_5} \geq 30\text{mm}$

2) $R_{V_6} \geq 23\text{mm}$

3) R_{V_5} , または $V_6 + S_{V_1} \geq 50\text{mm}$ (30歳以下の青年男子), $R_{V_6} + S_{V_1} \geq 40\text{mm}$, または $R_{V_5} + S_{V_1} \geq 50\text{mm}$ (その他)

4) $R_I + S_{III} \geq 20\text{mm}$

5) $R_{aVL} \geq 11\text{mm}$

6) $R_{aVF} \geq 22\text{mm}$ のいずれか

左室肥大例では, 高いR波を有する誘導 (V_5 , V_6 など) で平低~陰性T波をみるとが多い。これは肥大に伴う2次性T変化と考えられ, ST接合部の明らかな低下を伴わない場合には左室肥大所見に含め, 心筋傷害はとらない方がよい。